



国連憲章75周年 台湾を取り残してはならない

謝長廷・台北駐日経済文化代表処代表

2020年9月16日



貨物機から降ろされたマスクの入った荷物の前に立つ台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表（左から3人目）ら＝成田空港で2020年4月21日、中村幸和撮影

今年は、国連憲章が調印され国連が発足してから75周年にあたる。いま新型コロナウイルス感染症と世界が闘う中、国連が掲げる「普遍的人権」「包容性ある多国間主義」「誰も取り残さない」——という理念が、ますます重要となっている。台湾はこの理念に共鳴し、世界各国と手を携えて、国連の「持続可能な開発目標」（SDGs）の実現に向けて貢献することを望んでいる。

今年の第75回国連総会は9月15日よりニューヨークの国連本部で開かれたが、今年は新型コロナの感染予防のため、オンラインも併用する形となる。しかし、国連は政治的理由により台湾の排除を続けているため、台湾は国連の会合において各国と最新情報を共有することができない。

台湾は、第75回国連総会に向けて三つの主張を呼びかけている。まず第一に、国連は台湾の2350万人が国連のシステムから不当に排除されている状況の解決に向けて速やかに行動すべきだ。第二として、国連は台湾籍の人々やメディア関係者が国連を訪問することや会議、活動への出席または取材する権利を不当に剥奪しており、直ちに改め対応すべきだ。三つ目

は、国連は台湾が平等かつ尊厳ある形でSDGsの関連会合、メカニズム、活動に参加し、貢献を果たす権利を守るべきだというものだ。

台湾が国連体系への参加を求めているにもかかわらず、排除されているのは中華人民共和国からの圧力によるものである。しかし、台湾は決して中華人民共和国の一部ではない。

新型コロナのパンデミックにより国際社会は台湾が世界保健機関（WHO）および国連体系から不当かつ差別的に排除されている深刻さに気付き、多くの国が台湾のために声を上げてくれるようになった。

8月30日より訪台したチェコのビストルチル上院議長は、台湾の立法院（国会）で「民主国家が一致団結し、共通の価値を守る」と題して演説し、多くの台湾の人々を感動させた。

一方、欧州を訪問していた中国の王毅外相は「高い代償を払わせる」と威嚇した。これに対し、チェコの隣国であるスロバキアのチャプトバ大統領は、中国による発言は「受け入れられない」とする立場を示し「スロバキアはチェコを支持する」と強調した。また、ドイツ連邦議会（下院）のレットゲン外交委員長も「チェコが中国の報復を受けないよう、立場を一致させるべきだ」とEU（欧州連合）に呼びかけた。

台湾は、男女平等、経済成長率、清潔な水と衛生、格差縮小、健康と福祉など国連SDGs指標の多くで高レベルにあり、台湾のSDGsへの取り組みは、国際社会の課題解決に役立つ。台湾はコロナ後の世界を見据え、持続可能な世界を構築するため、国際社会と手を携えて貢献する準備ができている。日本の新政権からも台湾の国際貢献に対する支持が得られることを期待している。



謝長廷氏 = 台北駐日経済文化代表処提供

<政治プレミアトップページはこちら>



謝長廷

台北駐日経済文化代表処代表

台湾大学を卒業後、京都大学大学院に留学。弁護士を経て台北市議会議員、立法委員（国会議員）、高雄市長、行政院長（首相）を歴任。2016年6月から台北駐日経済文化代表処（大使館に相当）の駐日代表（大使に相当）。台北出身。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagrophy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.